

「黒曜石の探究 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

現在、霧ヶ峰高原や和田峠周辺で黒曜石を採集することは、極めて困難になっている。これは、このあたりの黒曜石に限ったことではない。かつては比較的自由に鉱物や化石の採集ができた場所でも、現在は国立公園や国定公園、地権者の問題、安全上の規制などで、採集はおろか、立入りさえ困難になっているところが多い。遠足や林間学校で、石一個拾うのも大変なのだ。



黒曜石の採集が困難になったこともあり、現在は「黒曜石体験ミュージアム」という立派な施設が建っている。「黒曜石」ではなく「黒耀石」と表記していることに、こだわりがあるという。長野県小県郡(ちいさがたぐん)長和町(ながわまち)にあり、和田峠からは車で20分ほどだ。通常こうした地元の博物館は、雨の場合のみ利用することが多い。しかし、事前の下見で訪問した時に、展示や体験プログラムの充実さに感服し、雨でも晴れでも利用を決めていた。



入口には巨大な黒曜石塊が「鎮座」している。一見石墨片岩のようにも見えるが、割れた面の光沢は、まさしく黒曜石である。

今回の5年生の林間学校では、一日目に八子ヶ峰(白樺湖の南側にある丘)でのオリエンテーリング、二日目は「プロジェクト活動」という、課題別活動を組んだ。3台のバスに分乗し、自分が一番興味のあるコースを選ぶのだ。1号車は「蓼科山登山コース」、2号車は「八ヶ岳高原と小海線乗車コース」、そして3号車が「黒曜石、自然観察、スケッチコース」となっている。単に林間学校で体験するだけでなく、子どもたちは自分のテーマを事前に調べて、情報を共有していた。



8月29日(林間学校2日目)に、3号車のコースの子どもたち41名と、黒曜石体験ミュージアムを訪れた。学芸員の方(実は私も学芸員の資格を持っている)は非常に優秀で、説明もうまい。子どもたちは真剣に説明を聞きながら、メモをとっていた。



館内の展示もすばらしく、黒曜石が出土した石器時代の遺跡をそのまま再現した地層ジオラマが圧巻だ。さすがに意識が高い子どもが多く、説明後の質問がなかなか終わらなかった。